

# マニュアルレフラクトメータ検査 例)合致式



目的

他覚的屈折度の測定

## 準備物 レフラクトメータ

電源スイッチをONにし、屈折値測定用ノブを+側にもどす



視度調整を忘れないこと！  
あらかじめ器械台やアゴ台の高さを大よそ被検者にあわせて調節しておくこと。

被検者の顔をアゴ台に載せ額を額当てにつけ、前方を固視するように指示し、測定眼の方に移動ハンドル・測定部回転ノブを動かし、アゴ台調節ノブ・上下調節ノブをまわし眼の高さを調整し、器械の側方から被検者の角膜上に光反射が映るようにする

被検者に対物レンズの上方に出る緑色の視標をぼんやり固視させる

接眼レンズをのぞいて移動ハンドル・上下ノブで微調整して視野内に各々の2本の直線像が入るようにし、再度移動ハンドルを前後させて鮮明にする

### 乱視の決定

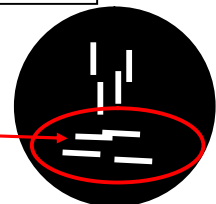
YES

NO

水平の平行線像が上下にずれていないか？

乱視なし

乱視あり



軸合わせ用

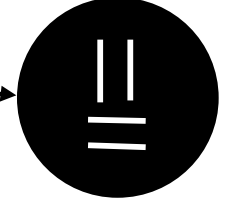
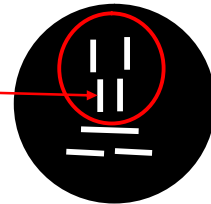
### 乱視軸の決定

回転ハンドルを回して2本の平行線像にする

### 乱視度の決定

+側から屈折度測定ハンドルを回して左右にずれている垂直線像が2本の平行線になるようにする

屈折度用



読み取りレンズを通してジオプターと乱視の軸の角度を読む

YES

NO

乱視があるか？

乱視がある場合ね！

読み取った軸と直交した方向に回転ハンドルを回す

垂直・水平方向のそれぞれの数字を記載する

その数字が屈折度(単位はD)

結果・記載例)

自分の結果を書いておこう！

( )D      ( )D



レフラクトメータの場合、屈折値は眼鏡矯正の度数、すなわち角膜頂点から12mmの位置での度数となるのでその人の本当の屈折度数ではないよ！

# マニュアルレフラクトメータ 合致式

手動のレフラクトメータだよ！かなり古い！もう残っている病院は少ないだろうね。でも幼児の屈折検査としては情報が多いよ！



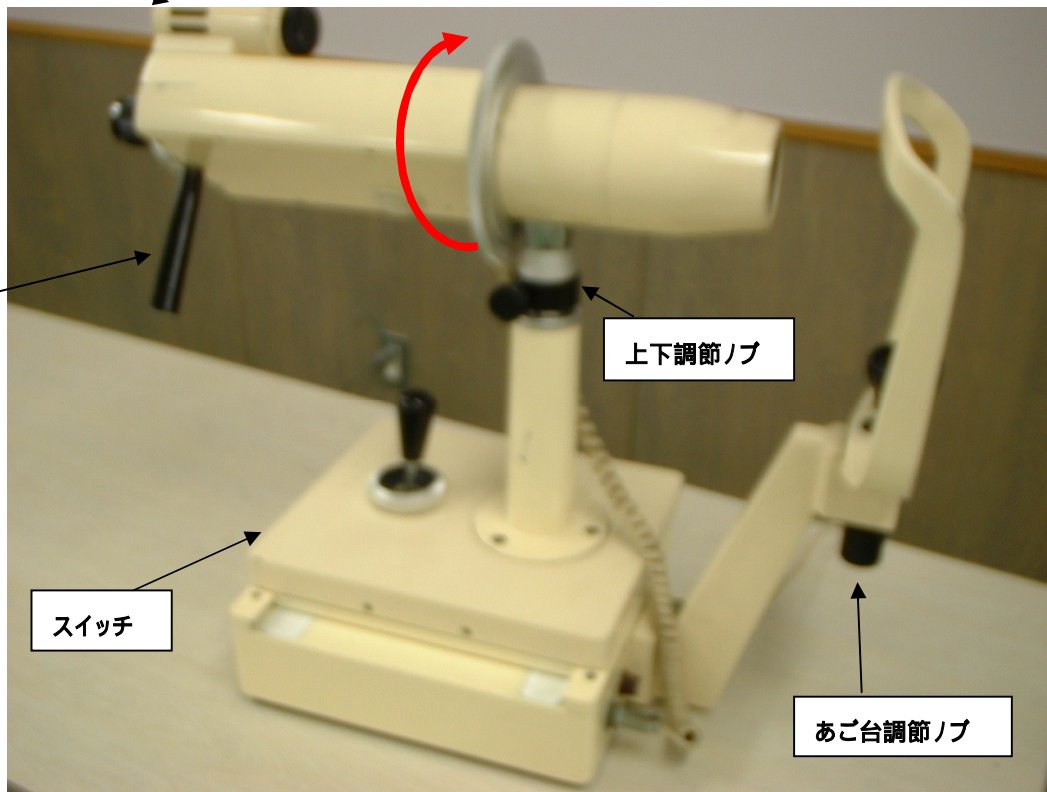
読み取りレンズ

水平振りハンドル

スイッチ

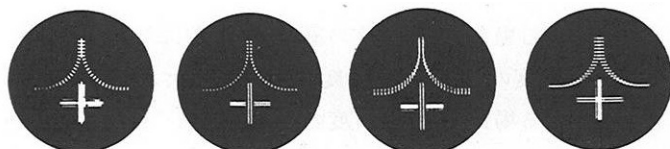
上下調節ノブ

あご台調節ノブ



## その他の型

### 結像式



- a. 焦点の合っていない状態
- b. 乱視のない場合
- c. 180°の屈折度に合っている状態
- d. 90°屈折度に合っている状態